

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2008年1月1日

52号

謹賀新年

巨文島（韓国）

世界最大の湿原、パンタナールの朝陽

「生きている海、呼吸する沿岸」をテーマに世界博覧会の誘致をして来た。地球温暖化が関心を深めている中、特にヨーロッパの国々からの支援と日本からの支援を受け、モロッコ、ポーランドの候補地を破つて、世界博覧会が麗水にての開催が決定された。最近、特に森林の破壊だけでなく、海の汚染の問題も世界的に関心を集めしており、海洋の、川の水を保護する事が急務となつてゐる。南北米福地開発協会でも本年は森林や希少動物の保護などの活動と共に海や川の環境を保護する事の重要性を訴え、そのための活動を進める事を計画している。。

2007/1/5



麗水の港

韓国南部全羅南道の先端に位置する麗水は、人口三十二万千人の沿岸都市。「生きている海、呼吸する沿岸」をテーマに、海洋における持続可能性や種の多様性の保全、温暖化による海面上昇などへの解決策を提示し合う場にしたいとしている。

「国連海洋法条約」では、海洋汚染の原因を次のように分類している。

陸からの汚染（河川、パイプラインなどを通じて川に流れ込む工場や家庭からの汚染物によるもの）

海底資源探査や沿岸域の開発などの活動による生態系の破壊、汚染物質の海への流入など

投棄による汚染（陸上で発生する廃棄物を海洋に投棄することによる汚染）

船舶からの汚染（船舶の運行に伴つて生じる油、有害液体物質、廃物などの排出による汚染）

大気を通じての汚染（大気汚染物質が雨などとともに海洋に達して生じる汚染など）

私たち人間の作り出した化学物質や廃棄物による環境汚染は、地球全体に広がっています。もちろん海洋も例外ではありません。様々な有害化学物質や、原子力発電所など核施設から発生する放射性廃棄物、アルミナ工場から出る赤泥（せきでい）、廃棄物処理場や鉱山などから流出する水銀など、今もたくさんの汚染物質が海に捨てられ、流れ込んでいます。

これらの汚染物質は、長期にわたり海洋に残り、海流に乗つて世界全体に広がります。汚染物質は魚やクジラなどの体内に蓄積して、彼らの命を脅かすだけではなく、海洋生態系全体を破壊してしまいます。さらには、私たちが食べるシーフードを通じて、人間の健康や生命も危険にさらされることになるのです。

「麗水は地球温暖化に警鐘を鳴らし、「生きている海、息づく海岸」を守るというテーマを掲げ、環境問題の重要性を訴えて開催地に選ばれただけに、今後は国際海洋環境都市としての手本となれるよう総力を尽くさなければならない。」

豊かな海を守るために今すべきことを提示し、それを実践するための長期プロジェクトを立ち上げ、投資していくべきだ。また展示場やインフラの建設・整備を徹底して行い、南海（東シナ海）の美しさが実感できるような工夫を凝らすことでの観光地としての魅力を世界にアピールできることだろう。

南海岸の真ん中、嶺南地域（慶尚道）と湖南地域（全羅道）の境界線に位置する麗水は、今後は全羅南道の一都市ではなく、南海岸の新時代のシンボルとなるだろう。そして嶺南・湖南はもちろん、済州までをつなぐ地域融和の中心地となるのだ。』

朝鮮日報／朝鮮日報 2021年1月28日の記事

普及率が高まる 再生可能エネルギー

化石燃料は2世紀にわたり、人類の成長を支えてきたが、いまや転換点がやってきた。幸い、代わりの選択肢も存在する。風力や太陽光、地熱はエネルギー源になる。また、海の波による波力発電も可能だ。エタノールやバイオディーゼルなど植物を原料とする燃料は自動車のガソリンやディーゼル燃料の代替となる。省エネと効率アップによる消費量の低減も、エネルギーの“クリーン化”を進めるには重要だ。

現在、エネルギー総供給量に占める再生可能エネルギーの割合は2%ほどである。それは人類のエネルギー需要のごく一部でしかない。しかしながら、投資の増加と欧州連合(EU)が2020年までに再生可能エネルギーの割合を20%まで引き上げる目標を掲げたことで、普及には一段とすみがつくかもしれない。



需要が増える バイオ燃料

ヘンリー・フォードが開発した第一号車はエタノールで走る車だった。ルドルフ・ディーゼルも最初は燃料にピーナツ油を使用した。その後、石油を原料に、彼の名にちなんだディーゼル燃料が生まれた。ガソリンとディーゼル燃料は安価で、燃費にすぐれていた。

しかし、いまや価格の優位性は崩れています。また、バイオ燃料から放出される二酸化炭素(CO₂)は、元々、作物が成長する過程で大気から取り込んだものなので、バイオ燃料を燃焼させても大気中の二酸化炭素(CO₂)濃度はあまり変わらない。それでもまっ

たく無害というわけではない。原料栽培の作付面積は1400万ヘクタールに及んでおり、食料生産に影響を与えている。燃料用作物と食用作物への高まる需要は、価格を釣り上げ、新たな耕作地の開墾へつながる。化石燃料消費の割合を1%引き下げるために、100万ヘクタール以上の耕作地が必要になる。最大の問題は、すべてのバイオ燃料が環境にクリーンなわけではないことだ。トウモロコシを栽培し、アルコールを得るには、収穫量とほぼ同量の化石燃料を必要とするのだ。

甘い“ガソリン”

エタノールやバイオディーゼルは途上国では目新しいエネルギーだが、ブラジルではすでに1970年代後半にアルコール燃料の一大政策を導入した。ブラジル産のラム酒力シャーサの原料になるサトウキビの醸造所が、ブラジルの自動車や軽トラック用燃料の40%を供給している。写真はサンパウロ州の農夫が2007年の作付け時にサトウキビの苗を検査している様子。

国別バイオ燃料生産量とその原料

2005年

単位：キロリットル

エタノール

1649万
ブラジル
サトウキビ

バイオディーゼル

192万
ドイツ
ナタネ

1622万
米国
トウモロコシ

51万
フランス
大豆

200万
中国
トウモロコシ、小麦

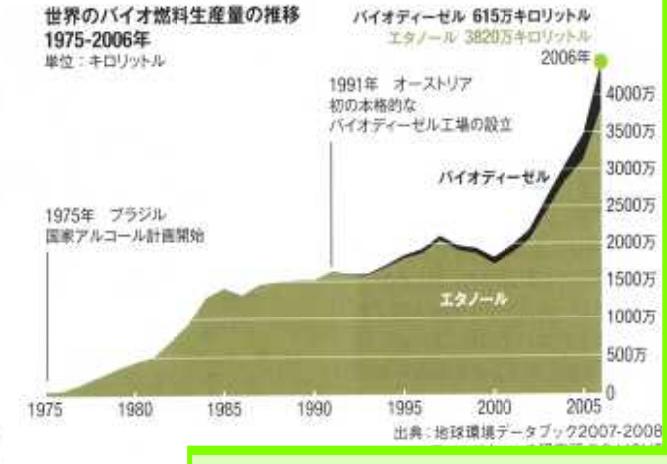
29万
米国
ナタネ

世界のバイオ燃料生産量の推移

1975-2006年

単位：キロリットル

1975年 ブラジル
国家アルコール計画開始



バイオディーゼル 615万キロリットル
エタノール 3820万キロリットル
2006年

1991年 オーストリア
初の本格的な
バイオディーゼル工場の設立

アメリカの会員との交流会（十一月九日）



アメリカの会員に2007年度の活動報告をする飯野事務総長。今後、アメリカよりパンタナールへのエコツアーの推進と植樹活動を活発化することを話し合った。

アメリカ在住の南北米福地開発協会の神山会長と2008年度の計画を話し合う飯野事務総長事務総長はその後、南米、レダに向かって出発した。来年は後継者の育成に力を入れることを確認した。

一日環境セミナー 参加者の感想（十一月十六日）

『今回、半年ぶりにセミナーに参加し、前回より植林の重要性が良くわかつた。少人数のクラスで先生とコミュニケーションできたのも良かつた。植林が環境問題を解決する主要な解決法であること。環境問題は本当に色々な現象が起きていて、国連も政府も企業も注目している課題であること。「一番は地球に恩返したい」という心を持ち実践したいと思つた。』 大学生

『私は今年の青年ボランティア隊に応募しましたが、事情があり行く事が出来ませんでした。しかし、今日のセミナーに参加して、来年か再来年には行きたいと思つた。環境問題は植樹をすることによって、地球がまた元気になると聞いてとても驚きました。一人ひとりが関心を持つて植樹に協力すればまた、美しい地球になると想います。自然を心から愛する者として、まず、周りの人たちに伝えて行こうと思います。』 大学生

主婦

『レダ開発については、今までお話を聞いたり、植樹を協力してはいましたが、はつきりと開発ビジョンについて理解していませんでした。今回参加して、その点がハッキリし参加して本当に良かつたと思います。』

一日環境セミナー 御案内

日時	南北米福地開発協会 事務局
二〇〇八年一月十九日（土）	二千円（昼食付き）

参加費
研修内容
午前中

『温暖化対策における植樹活動の意義』
地球の緑を守る会 事務局長 戸石文夫

午後

『パンタナールエコツーリズムの魅力』
南北米福地開発協会 事務局長 柴沼邦彦

南北米福地開発協会 事務局
〒二二三一〇〇〇一
神奈川県川崎市高津区
溝口三一十一一十五
岩崎ビル四F
八二九一二八二二

電話 ○四四一八一九一二八一
FAX ○四四一八一九一二八一

会費納入 一〇一八 ○一七七六八〇四七一
郵便口座 八二九一二八二二

代表 柴沼邦彦

E-MAIL office@asd-nsa.jp
ホームページ <http://www.asd-nsa.jp>